



# 観光・国際交流

九州最北端に位置する対馬市は、韓国の釜山までわずか49.5kmという「国境の島」としての立地を活かし、古くから大陸との深い交流の歴史を刻んできました。近年もその地理的特性からインバウンド観光を推進してきましたが、令和元年からの国際情勢の変化や感染症の流行による来島者の激減という局面を、これまでの特定の地域に依存した構造を見直す「パラダイムシフトの契機」と捉えています。

現在は「日本の始まりに会う、源の島」をコンセプトに、「国境の島」ならではの雄大な自然や、対馬と韓国の「誠信の交わり」、さらにはマニアックな文化的価値といった独自の地域資源を掘り起こし、対馬でしか体験できない物語として磨き上げています。

これらを通じて、従来の「量」を追求する観光から、コアなファンづくりにつながる「質」への転換を推進し、来島者の満足度の向上と観光関連産業の安定化に取り組んでいます。

参考URL

<https://www.city.tsushima.nagasaki.jp/gyousei/shisei/keikaku/kankou/4270.html>

## 数字で見る対馬の「観光・国際交流」

韓国人入込客数

(2018年)

**41万**人

(島の人口の10倍以上！)

DOWN

韓国人入込客数

(2021年)

**0**人

UP

韓国人入込客数

(2025年)

**26.6万**人

観光客数

(2025年)

**30.3万**人

## 「観光・国際交流」、見どころをご紹介

### 対馬の「歴史」

対馬は、古くから日本の玄関口として重要な役割を果たしてきました。「魏志倭人伝」にも「対馬国」として登場し、日本と大陸を結ぶ中継地として、特に江戸時代には幕府の外交を担い、朝鮮との国交を維持しました。朝鮮通信使の往来はその象徴で、対馬は「日朝の架け橋」として文化・外交の中心となりました。

### 対馬の「体験」

日本と韓国の上に浮かぶ国境の島・対馬では、豊かな自然と歴史、文化を生かした多彩な体験が楽しめます。エメラルドグリーンの中茅湾でのシーカヤックやSUP、白嶽などの山でのトレッキング、玄界灘での釣りなど、自然と一体になれるアクティビティが充実。歴史の面では、対馬藩宗家ゆかりの史跡や朝鮮通信使の足跡を巡ることで、国境の島ならではの物語を感じることができます。

### 対馬の「食」

対馬は、海と山の恵みが豊かな食の宝島です。玄界灘で育った脂ののったあなごや、新鮮なうに・イカ・サザエなどの海の幸は格別。山間部では、日本最古のそばのひとつといわれる「対州そば」が受け継がれ、香り高い風味が人気。さらに原木しいたけや蜂蜜など、自然の恵みを生かした食材も豊富です。